

日本工学院八王子専門学校		開講年度	2019年度（平成31年度）		科目名	応用演技Ⅰ	
開設学科	声優・演劇科		コース名	俳優・タレントコース		開設期	前期
対象年次	2年次		科目区分	選択		時間数	60時間
単位数	2単位		授業形態	実習			
教科書/教材	レジェメ・資料は必要に応じて配布。参考資料等は授業内で指示する。						
担当教員情報							
担当教員	長谷川浩司・尾花宏行			実務経験の有無・職種	有・俳優　ディレクター		
学習目的							
この科目を受講する学生が、今後、卒業後の芸能活動を送る上でセルフプロデュースの重要性を理解し、自己の資質を明確にイメージさせることによって、より独自性に富んだ発想を意識できるようになることを目的としている。コンテンツが多様化している現在において、自分の進む業界に対しての意識、どのような人間が芸能界に必要なされているかを考え、求められる人材になりえる方法の模索、自己発信・自己表現ができるようになるのがねらいである。							
到達目標							
自己表現の手法が多様化する現在の芸能界において、これから迎える新技術に対応していくべく、時代と共にある手法を体験しながら自分にとってどういった方法で自己表現が有効かを考え、実践できる能力を養い、セルフプロデュースを検討する。そして、それを形にするための手順や手法、技術を体得することを目標とする。							
教育方法等							
授業概要	個人ワークから始まりグループワークへ移行していく。演劇のメソッドとして、インプロビゼーションを取り入れつつ企画・構成を考えながら進める。自己の表現と他者の表現の違いを意識しながらよりよい表現方法を模索し、セルフプロデュース能力を育成。個人での企画制作とグループ単位での企画制作の相違点を理解し、一つのコンテンツを仕上げ、自己表現のあり方を習得することを目指す。						
注意点	この授業ではコミュニケーションを重視し、役割分担等、得意分野に限らず、主体的意思の元に行動し学ぶ姿勢を持つ学生を高く評価する。自らが考え、答えを導き出す事に重きを置き、積極的に参加することを求める。理由のない欠席は認めない。恒常的に出席することが基本原則である。課題として課する物の提出は必ずする事。授業時数の4分の3以上出席をしない者は定期試験を受験することはできない。						
評価方法	種別	割合	備　考				
	試験・課題	60%	試験課題を総合的に評価する				
	成果発表 （口頭・実技）	20%	授業時間内に行われる発表内容について評価する				
	平常点	20%	積極的な授業参加態度、事前準備の有無によって評価する				
授業計画（1回～15回）							
回	授業内容			各回の到達目標			
1回	導入　インプロビゼーションを考える			インプロビゼーション（即興）を理解する。			
2回	インプロを意識しながらペアのエチュード（1）			プレゼンテーションをするための事前の準備について理解する。			
3回	インプロを意識しながらペアのエチュード（2）			他者の良い所を見つけ出しプレゼンテーションできるようになる。			
4回	インプロを意識しながらグループエチュード（1）			プレゼンテーションをするための対象が複数になった場合の事前の準備について理解する。			
5回	インプロを意識しながらグループエチュード（2）			自分、及び複数の他者の良い所を見つけ出しプレゼンテーションできるようになる。			
6回	セルフプロデュースについて考える			セルフプロデュースを理解する。			
7回	インプロを意識しながら1人のエチュード（1）			前回までの事を考慮してセルフプロデュースするための事前準備について理解する。			
8回	インプロを意識しながら1人のエチュード（2）			セルフプロデュースを考慮し自己表現について理解する。			
9回	動画について考える			セルフプロデュースの1つのコンテンツとして理解する。			
10回	動画企画制作（1）			実際に制作をするにあたり、どのような準備が必要かを理解する。			
11回	動画企画制作（2）			制作をするにあたっての企画を立てる事を理解する。			
12回	動画企画制作（3）			企画したものへの制作手段や事前準備ができるようになる。			
13回	動画企画制作（4）			実際に企画したものを制作できるようになる。			
14回	動画発表・意見・討論			自己の表現方法と他者の表現方法の違いを考察できるようになる。			
15回	全体のまとめ			多様化するセルフプロデュースの現状を理解する。			